

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2770900856		
法人名	医療法人杏仁会		
事業所名	グループホームブルーベリー		
所在地	高槻市東和町57-1		
自己評価作成日	平成 30年 10月 29日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JizyosyoCd=2770900856-006&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 12月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・献立を決め、買い物、調理を行っている。 ・庭には畑があり、収穫した物は食卓に並んでいる。 ・買い物、散歩、庭、畑いじり等、外へ出る機会が多い。 ・敷地内には老健、居宅事業所、隣接してクリニック、デンタルクリニック、認定こども園がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後20年を迎えた1ユニットホームは、家庭的で「輝いて共に生きる」の理念を基に「ゆっくりと一緒に楽しむ」ケアを実践しています。管理者のケアへの意識は高く、職員と共に自宅での生活ができるだけ継続できるよう、自由な暮らしを提供しています。玄関は開放されており、自由に庭に出ることができます。就寝前の一对一の入浴や散歩、買い物ついでにカフェでゆっくりと過ごし、家庭菜園で野菜を育て、食事作りを楽しむなど日常生活で、一人ひとりがそれぞれの役割を持ち、自立に繋がるように支援しています。利用者同士がお喋りを楽しみ、体操や歌を歌ったり、ゲームをしたり、ホームには笑い声が響いています。家族会があり、家族の訪問も多く、園児たちが遊びに来ることもあります。利用者、家族の要望に応じて、外泊や外出も自由です。法人の敷地内にあるホームは、自然環境にも恵まれており、ハーブ園や菜園があり、自然豊かな四季を感じる空間となっています。外気に触れ庭を散歩することができます。ホーム内は、天井が高く開放的で、天窓からの採光で、明るく快適な生活の場が提供されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「輝いて共に生きる」を基に、「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念として掲げ、日々ケアに取り組んでいる。	法人の理念「輝いて共に生きる」を基に「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念と定めています。前回の外部評価以降、理念の実現のため、職員はより具体的な目標作りに取り組んでいます。今後、目標の実現のためグループホーム会議や毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者がその人らしく安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の人たちと共に支えていく予定です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日スーパーで買い物をしたり、散歩に出かけたりしている。 保育園、小学校や中学校との交流もあり、体育祭や文化祭も見学したり、お祭りや花火大会には参加して頂いたりしている。	毎日の食材の買い出しや散歩に出かけ、地域住民と挨拶を交わし、地域の人達と馴染みの関係を築いています。散歩の際には、地域の一員として、ごみ拾いなどしており、近隣住民より、野菜や花をもらうこともあります。幼稚園児や小学校の子どもたちと触れ合う機会も多く、一緒にゲームや話をして、楽しい時間を過ごしています。地域の盆踊りなどの行事にも参加し、入居後も地域との繋がりを大切にしながら生活しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でお話しさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見はスタッフと話し合い、運営者にも報告し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2か月に1回開催しています。構成メンバーは、家族、利用者、地域住民、市役所職員、民生委員です。民生委員の交代などで、欠席する場合もありますが、できるだけ地域を巻き込んで運営推進会議を開催したいと考えています。会議では、ホームの行事の様子やサービス状況、身体拘束適正化のための対策など、国の施策なども報告しています。今年は、運営推進会議を通じて、災害時の対応なども地域住民とともに考える機会となりました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方には、電話や会議の場で相談したり、報告をしている。	管理者は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また管理者は、市の介護保険事業者協議会に参加し交流をしていますが、今後職員にも交流に参加させる予定です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム開設から身体拘束はしておらず、原則禁止行為であると言う事は全スタッフに周知できている。 勉強会にも参加している。	職員はあらためて「身体拘束とは具体的に何か」を議論するとともに、身体拘束廃止について学び、意識を高めて、身体拘束のない介護を目指しています。1階の出入口扉は施錠されていません。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。また、身体的拘束等適正化検討委員会を実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加し、虐待について学んでいる。ホーム内だけでなく、ご自宅、ご家族様に対しても注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに成年後見制度を利用された方はいませんが、勉強会に参加したり、地域包括支援センターから情報を得たりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には見学して頂いて説明をしており、十分理解、納得した上で契約締結している。解約の際も話し合いの場を持っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議で外部者へ表せる機会を作っている。 又、意見は運営に反映する様、努力している。	ブルーベリー通信を発行し、ホームでの様子を写真で伝えています。年2回開催している家族会では、家族同士の交流とホームへの要望を聞く機会となっています。家族の来訪も多く、週に数回来訪する家族もあり、少ない家族でも月に1回は来訪しています。家族の来訪時には、できるだけ話を聞くように努めています。利用者のみならず、家族を含めた職員の対応は、職員への信頼に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、起案書等により、提案を聞く機会を設けている。	職員は、定例のグループホーム会議や毎日の業務を通じて業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。管理者は職員がチームワークの向上をはかるとともに、介護スキルのレベルアップを図るため、研修や資格取得、地域のグループホームとの交流を奨励したいと考えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生き生きとやりがいを持って仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた外部研修を受講できる体制を整え、法人内でも毎月研修を行っている。 研修に参加できなかった者に対し、伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市介護保険事業者協議会に加入し、事業者が連携して勉強会等を開催し、よりよいサービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と向き合い、じっくりと話を聞くことを心掛けています。ブルーベリーではほぼ毎日買い物に行っており、その道中は密にゆっくり話せる時間です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会を年に2回開催して、交流を深めている。 また連絡を取り合い、ご家族様の話を聞いたり、こちらでのご本人様の様子を伝えたりし、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービスを使い、地域の方々との交流を図っている。(夏祭りや地域の中学校の文化祭や運動会に行く)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、わからないことを相談します。 特にブルーベリーでは料理等、先人の知恵を拝借させていただく機会が多いです。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも十分なコミュニケーションを図り、同じ思いでご本人様を支援していく関係づくり行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力していただき、ご近所の方、知人の方に面会に来ていただいたり、外出、外泊したりする事も勧めている。	入居後も今までの生活が継続できるよう、一人ひとりの希望に応じて支援をしています。買い物ついでに、カフェでお茶やケーキを楽しみ、家族の協力も得ながら、買い物や外食に出かけています。利用者や家族の要望に応じて、外出や外泊への対応もしています。面会時間は自由で、いつでも、だれもが訪問しやすい環境を提供しています。携帯の持ち込みはありませんが、外部からの電話は、随時取り次いでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している。 利用者孤立した場合、口論になった場合はスタッフが間に入るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても面会に行ったり、ホームに遊びに来て頂いたりして、御近所の方として、関係が続いている。又、相談を受けた際、誠意をもって答えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で話せる機会を設けている。 その時に話された事をケアプランにも繋げている。	買い物や入浴時など一対一になれる場面では、ゆっくりと利用者に関わり、思いを聞き取るよう努めています。一人ひとりのこれまでのライフスタイルを丁寧に聞き取り、本人が主人公になれるような場面づくり、生きがいに繋がるようなケアを目指して具体的なケアを提供しています。ホームだけの生活ではなく、日中、今まで住んでいた自宅で、ゆっくりと家族と過ごし、夜間をホームで生活することで、日常的に家族と繋がりながら、暮らす利用者もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様、本人、ケアマネジャーより、情報収集している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、その日の状態を確認している。 毎日の申し送りでスタッフが共有し、月1回モニタリングも行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意見を尊重し、ご家族様、スタッフで話し合い、計画を立てている。	介護計画は6か月ごとの見直しを基本としています。毎月モニタリングを行います。担当者会議にて情報を共有しています。入居時には、利用者の生活歴を丁寧に情報収集しており、一人ひとりに応じたケアが実践されています。入居後の新たな情報の追加や介護計画に沿った日々の実践記録が分かりにくいものとなっています。	立案された介護計画が日々の実践、記録に連動するように、職員間での情報共有の方法やカンファレンスの在り方、記録の整理方法など、工夫されては如何でしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は分かりやすく簡潔に書くよう心掛け、毎日の申し送りで情報を共有し実践や見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が提供できるよう、スタッフ間でのミーティング、ゆとりをもった人員配置で臨機応変に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や法人内にも協力を得て、安全・安楽・安心な生活ができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。 また、必要に応じ敷地内のクリニック、歯科クリニックであれば受診への付き添いも行っている。	医療への受診は、本人、家族の希望を優先して対応しています。かかりつけ医の往診は、月に2回あります。ホームでは、看護師を配置しており、日々の健康チェックや医師との連絡、緊急時の対応など、安心して生活できる環境を整えています。また、敷地内には、同法人の歯科があり、月1回の受診をしています。夜間や緊急時の対応については、マニュアルを作成しており、医療との連携が図れる体制が整っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、看護師が出勤している為、ある程度の状態は把握している。 また、24時間オンコールになっており、適切な看護が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、ケースワーカーにすぐ連絡を取り、必要な情報提供を行っている。 法人内スタッフが定期的に病院を回り、関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、家族等と話し合い、希望された病院や施設等を案内している。	重度化した場合や看取りの支援は、現状では行わない方針で運営しています。入所時には利用者や家族に、できないことを含めて、ホームの方針を伝えています。医療的処置が必要となった場合や重度化した場合には、提携施設と連携を図りながら、スムーズに移行できるように支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会への参加、伝達研修を行っている。 敷地内には、かかりつけ医が居る為、すぐに連絡を取り指示を仰ぐ等の対応を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会より、協力体制の契約は結べないとの事であるが、地域との良好な関係は築いている。 また、ホームで年2回、法人内で年2回の計4回消防避難訓練を行っている。	法人の併設施設と合同で消防署の承認のもと、夜間想定を含めて年2回の火災・災害避難訓練を実施しています。また、グループホーム独自でも同様の避難訓練を年2回実施しています。夜間の場合は、併設施設の人員の協力体制があり、安心感があります。災害にそなえ食料品と水の備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、その人その人にあった丁寧で分かりやすい言葉かけを心掛けている。	法人全体として、権利擁護や接遇などの研修を実施しています。日常的なケアの場面で、排泄時の声掛けや対応、居室に入るときは利用者の部屋であることを意識しながら声をかけ、入室しています。職員は、利用者は人生の先輩であるとの意識を持ち敬意を表し、一人ひとりに応じたケアを実践しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の献立決めや、余暇の過ごし方等、自己決定できるよう言葉かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望された事ができる様、努力している。 スタッフだけでは困難な事はご家族様にも協力して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には更衣をし、髪をとかす等の支援をしている。 また、外出時は希望に応じてお化粧のお手伝いもしている。 敷地内には訪問美容があり、カットやカラーもしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を決め買い物に行き、調理、片付けと一緒にしている。	昼食は隣接した施設からカロリー計算された食事が届きます。朝食、夕食は、ホームで手作りをしています。夕食は利用者の嗜好を取り入れながら献立を考え、利用者と一緒に食材の買い出しから食事作りまで、楽しみながら取り組んでいます。リビング兼食堂の隅に、キッチンがあり、食卓テーブルで食材に触れながら、皮むき、味付けや盛り付け、片付け、食器洗いなど利用者ができることは役割を決めて、皆で食事作りに参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好品や習慣等、入居時に尋ねている。毎日の摂取量も記録し、必要であれば法人内の管理栄養士に相談している。 一人一人の食べられる量も把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはハミガキをする様に支援している。 週2回義歯洗浄剤につけ清潔に努めている。 年一回、市が行っている無料検診に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行かれた際には、パンツやパットのチェックを行ったり、使用時間を確認したりして、排泄パターンや方法等を把握している。	トイレでの排泄を基本としています。排泄の自立をしている利用者が多く、職員は、排泄リズムや習慣を把握して、トイレに誘導しています。入居までリハビリパンツを使用していた利用者が、声掛けすることで自立し、布パンツ使用になりました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れたり、お米にもち麦をまぜたり、毎朝バナナを食べたりしている。運動をし、予防に努めている。 また、内服薬で予防もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴するかしないかは、一人一人に尋ねており、最低でも週2回以上は入浴できるよう支援している。	自宅で暮らしていた時の入浴習慣を大切にしています。利用者の希望に応じて、就寝前入浴や毎日入浴している人もいます。入浴を好まない利用者には、声掛けの工夫や入浴剤などで、利用者が楽しめる工夫により、最低でも週2回は入浴するよう働きかけています。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯、冬場は保湿剤の入浴剤も取り入れて、皮膚の保湿にも努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中であっても、その時の状態 に応じ居室で休んで頂くよう支 援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	お薬情報をファイルしており、 いつでも見られるようにしてい る。 薬に変更があった際、申し送 りでスタッフに周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	個々の生活歴や力に合わせ役 割を持つて頂いている。 楽しみごとや気分転換の方法は 個々によって違うことから、個 別に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今すぐ出かけたい」と言われれば、希望に沿えない時もあるが、出来る限り沿うように努めている。 墓参りや外食、デパート等、ご家族にお願いすることもある。	ホーム周辺は、法人の所有するハーブ園や田畑が広がり、自然に恵まれた環境です。天気の良い日は、庭に出て家庭菜園や園芸を楽しむこともあります。ゴミ出しや洗濯、昼食を隣接施設へ取りに行くなど、日常的にホーム外に出ています。また、ホーム周辺の散歩や、職員と食材の買い出しに出かけています。外出行事として、家族の協力も得ながら、花見や外食を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお金をお預かりしていて、どの程度であれば使用してよいか入居時に確認している。高額な物が欲しいと言われた時や必要性に迷った際はご家族様に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話を使って頂いて良い事としています。 ハガキ等を郵便局へ一緒に買いに行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目で見てそこが何をする場所なのか分かるように張り紙をしたり、トイレは24時間電気をつけたままにしたりしています。	平屋の建物は天井が高くゆったりとしており、天窓からの採光で、明るく快適な空間となっています。居室の中央に位置する食堂兼リビングから四季折々の、のどかな田園風景を眺めることができます。リビングからは、法人のシンボルであるハーブ園に自由に出ることができます。リビングの窓側には、大型テレビが設置しており、ソファが置いてあります。食後に数名でソファに座り、談笑している場面が見られます。玄関やテーブルには季節の生花、食堂の片隅にキッチン、冷蔵庫などがあり、生活感を感じられる環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名で話ができるようソファを配置したり、庭に向けて椅子を配置したりしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとカーテン以外は全て持ち込みになっており、使い慣れた家具を持ってきて頂くようお願いしている。	各居室は明るく、窓から周辺の田園風景や手入れの行き届いた庭を眺めることができます。利用者は、家族と相談して、ベッドやタンス、椅子、テーブル、鏡台など、自宅で使用していた馴染みの家具を持参しています。居室には、ハサミなどの危険物以外は自由に持ち込むことができます。テレビや時計、雑誌、化粧品やネックレスなどの身の回りの装飾品、洋服ハンガーなども持参しています。室内の壁紙は、部屋ごとに異なり、各部屋に持ち込まれた利用者の思い出の品や写真など、入居前までの生活の雰囲気を継続できるような部屋作りが工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札をたて、トイレやスタッフルームの前にも掲示している。 居室から一歩出れば共有空間があり、安心感もある。		